

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	平成28年4月30日	評価結果市町受理日	平成28年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「喜怒哀楽」を柱として、利用者一人おひとりの思いを大切に、個性を尊重しながら、利用者皆様が明るくハリのある生活が送れるように支援しています。楽しみが持てる年間の企画を立て、1年を通し四季を感じられるようにホーム内での行事や外出、また地域の自然を感じられる散歩や、畑づくりを行い、沢山の思い出が作れるように取り組みを行っています。朝起きて夜寝るまでの時間、ほとんどの方が共有スペースで過ごしておられ、顔なじみの関係が築かれ、共に生活を送りながら、生きがいを見出しておられます。家事をされる方、また草取りをしてくださる方、畑作りをされる方、熱心に作品を作られる方など、様々な一人おひとりの過ごされ方があります。利用者様と職員との会話があり、いつもどこかで笑いが起こり、毎日お互いが明るく楽しく時間が過ぎていくように取り組み、安心で居心地のよいホーム作りを継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族からの情報や「私の暮らし方ノート」を活用されたり、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子を分かりやすく記録された経過記録などから、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努められ、利用者のしたいことやできることの把握につなげておられます。思いや状態に変化がある度に、暮らし方シートに、赤字で追加記入しておられ、全職員で共有され、事業所の理念にそって、利用者一人ひとりの思いを大切にされた支援に取り組まれています。共有空間の壁面に飾る季節毎の作品を、利用者や職員と一緒につくられたり、ボランティアの指導で、手芸(ざるの干支などの小物づくり)をされたり、テレビやDVDの視聴、音読、歌を歌う、ゲーム、畑仕事、掃除、食事の準備や後片づけなど、楽しみごとや活躍できる場面につくられて、利用者が、日々、張り合いや喜びのある暮らしができるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 喜怒哀楽の実践として、人としての表情豊かな日々を送っていただけるようにと考え、毎月ホーム内行事、また外出を企画し一緒に楽しみ、喜びを分かち合えるようにと努めている。またホーム周辺は自然に恵まれた環境で、馴染みの場所があり、散歩をしたりしながら四季を感じられ、安心でき、笑顔の絶えない生活を送られるように支援を行っている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。ミーティングの中で理念について話し合ったり、日常のケアの中で、利用者に向き合いながら、理念にそったケアができているかを確認して、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方にも馴染みある施設として、関係を築けるように努めている。認知症啓発事業の講座を、今年度は自治会の会館に住民の方々に集まっていたいただき、を行ない、意見を交わす機会を持た。毎年1回夏祭りを開催し、地域住民の方にも多く参加していただけるように、企画を見直しながら継続をしている。また様々なボランティアの方や施設見学者など多くの方の来訪があり、閉鎖的にとらわれがちな施設ではあるが、交流の機会も多くなっている。また地域の小中学校の生徒たちの職場体験や、市職員の職場研修等の受け入れも行い、ホーム利用者の方々と交流を深めている。	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業に参加している。利用者は観音様の接待や神社の春と秋の祭りに出かけ、くじ引きや子どもたちの剣道大会の見学をしている。拠点施設全体で年1回、祭りを開催し、事業所はバザーを行い、利用者は和太鼓の演奏を聴いたり、祭りに参加している地域住民と交流している。利用者は拠点施設内にある地域交流スペースに来訪しているボランティアの三味線の演奏を聴いたり、音楽サークルのエレクトーン演奏に合わせて歌ったり、カラオケや手芸(季節に合わせた小物づくり)などで交流したり、幼稚園児の遊戯を見たり、手遊びでふれあっている他、自治会でワラを準備してもらい居室に飾るしめ縄づくりをしている。中学校の吹奏楽部や塩浜太鼓と踊りの来訪がある他、地域の踊りの先生が来訪し、事業所の祭りで利用者が躍るために指導している。小学5年生や中学生の体験学習の他、市の職員の職場体験の受け入れをしている。継続して、市の認知症啓発事業の委託を受け、公民館や地域の自治会で、講座を実施し、地域貢献をしているなど、地域との関わりが深まるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症啓発事業の委託を受け、地域の方へ認知症高齢者の理解を得られるように講座を行い、自治会でも講座を行って、毎回意見交換等の継続をしている。運営推進会議では自治会長、民生委員の方も交えて、毎回報告を行っているが、地域の状況や、問題など意見交換をし、何かできることがあれば協力出来る体制づくりに努めている。入居希望のご家族が来訪時には、ホームリビングにて状況等の聞き取りを行っている。施設内の雰囲気、また入居者の方々の生活触れていただき、ホームでの支援の方法などの質問のお答えしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、意義を理解し、毎年見直しを行いながら、改善できるように努めている。自己評価は各職員が、日々行っている業務の見直しをするために、職員各々が何項目か記入を担当している。日々の実践を振り返りながら、自分たちの実践している内容を、各項目に記入している。	月1回のミーティングで、管理者は職員に評価の意義について説明し、全職員に自己評価するための書類を配布して、項目を分けて記入してもらい、管理者がまとめた後、ミーティングで話し合い、自己評価としている。職員がやりがいを持って働くために、自己評価をケアを見直す機会と捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、緊急時の対応方法について、できることから改善に努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行うに当たり、毎回行事等の報告の他に、事故報告、ヒヤリハット報告の検証や、事業報告、事業計画など色々と報告する内容を変え、意見交換を行いながら、日々のサービスに活かせるよう取り組んでいる。外部評価についてや日程及び内容、結果もその都度会議の場でご報告を行っている。	会議は、併設施設(地域密着型特別養護老人ホーム)と一緒に、2ヶ月に1回開催している。利用者の日常の様子を映像で紹介したり、事業所の取り組み(行事、事故、ヒヤリハット、外部評価結果など)について報告し、参加者で意見交換している。会議での意見を活かして、防災訓練時に消防団員以外に地域住民の参加が得られるなど、地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの認知症啓発事業の受託を行い、事業所として協力出来るように取り組んでいる。また市の職員の実地研修の受け入れもを行い、事業所の取り組みや業務内容など直に感じてもらいながら、お互いに立場を外し、意見交換を出来るように取り組んでいる。	市の担当者とは、電話や直接出向いて情報交換している他、相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で連携を図っている。市職員の職場体験研修を受け入れたり、認知症啓発事業への協力をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について法人研修、内部研修に学ぶ場があり、個々を見直す機会をもっている。また日々の業務の中で、意見を出し合いながら、スピーチロック等気づけるように取り組んでいる。玄関の施錠等、行えない事のグループホームとしてのケアのあり方も常に念頭において、事故対策を行う様に努めている。	職員は、法人研修や内部研修で身体拘束について学び、正しく理解している。スピーチロックについては、気づいた時には職員間で注意し合ったり、ミーティングで管理者が指導している。職員は、「危うい傾向チェックリスト」で個々に自己チェックして見直し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人研修、内部研修に学ぶ場があり、参加を行うようにしている。また各入居者の担当者が中心になり、意見を出し合いながら、虐待に当てはまるのではないかと考えながら、方向性をしっかりと持ち、その方にとって安心した生活を送られるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明を行い、理解出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、疑問や不安を解消されご理解を得るように努めている。また契約内容等その時々で再確認できるようご説明を行い理解していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、相談や苦情に対しての受付体制を作り第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、説明を行っている。意見や要望等は職員間できちんと話し合いながら、運営内容に盛りこんで行けるように努めている。個別での対応方法等月1回の報告書に詳細に記入し、現状を把握していただけるようにしている。意見などはしっかりと受け止め要望ばかりを聞き入れるのではなく、記録等用いながら説明を行い、きちんと納得されご理解いただけるように対応している。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明して周知している。面会時や家族会、行事参加時、電話等で、家族からの相談や苦情、意見を聴いている。利用者を担当している職員が利用者の様子を手紙にしたり、利用者の状況(食事、移動、歩行、排泄、入浴、休息、コミュニケーションなど)報告や事業所だより、写真などを添えて家族に送付して、家族が意見をいいやすいように工夫している。ケアに関する要望には、職員間で話し合い対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、k全職員に人事考課シートを配布し、提出後施設長と個別面談を行い、意見を話せる機会を設けている。また職員ひとりひとりに、委員会や外出行事やホーム内行事、昼食の日の献立など役割が有り、運営に携わりながらやりがいの持てる職場作りを心掛けている。職員が担当している利用者のケア方法など、担当する職員が中心となり、思いや個性が出せる機会を多く作るようにしている。意見や提案を様式に記入し職員全員で回覧を行い、改善及び工夫出来るように努めている。	管理者は、毎朝の申し送り時や月1回のミーティング時に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の勤務の中でも聞いている。職員は、気づきや提案を「温故知新の書」に記録して、ミーティングで話し合っている。拠点施設長が年2回の個別面談をしている他、利用者の日常生活を記録した経過記録に目を通し、職員がやりがいを持って働けるように職員と意見交換している。利用者の状態に合わせて、職員の勤務時間を変更したり、夜勤時の職員に体調不良が起きた時に、拠点施設の宿直の協力が得られる体制ができるなど意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は出勤日には必ずホームに立ち寄り、記録など目を通し職員とも話す時間をとっている。意見や希望を聞いたり随時相談は受けるなど、やりがいの持てる職場づくりに努めている。週1回の統括会議において現状を報告し、職場の問題点を報告し、具体的な改善対策等法人幹部などと話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1日法人会議が行われ、様々な内容の研修を開催し、職員教育の場を設けている。併設施設との合同研修も行い、各職員のスキルアップに努めている。また外部の研修へは勤務の一環として多く参加させている。受講後は復命報告を提出し、他の職員にも回覧して情報共有を行っている。技術、対応法等はその都度職員同士で意見を出し、シミュレーションを行いながら、身につけるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や必要に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は、ミーティングで復命報告をし、資料を回覧している。法人研修は年8回あり、希望者が参加している。拠点施設内研修は、毎月、同じテーマで4回実施し、全職員が受講できるようにしている。外部講師や拠点施設長、管理者、リーダーが講師を努めている。内部研修は、必要な時に、その都度、ミーティングの中で勉強会を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協会の勉強会等、勤務として参加、また市や県などの研修会にも参加を推進している。法人内での研修会があり、同法人内の職員同士が、意見交換や交流を持ちながら、良き相談相手として共に向上していけるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には必ずご自宅、または今生活を送っておられるところへ訪問し、生活環境を把握しながら、ご家族、関係者に現状を伺っている。またご本人やご家族からの要望等、細かくお聞きし、入居前にスタッフ間で、情報共有を行えるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にしっかり情報収集を行い、必ずご家族にも思いやご要望を伺っている。面会の時間を特に決めておらず、夕食後でもご都合のいい時間にとお願いをし、どの時間帯でも来れることで、安心していただけるようにと考え継続している。ご家族へは、状況報告を密に行い、また希望や要望などを伺いながら、安心出来るホームに思っていただけのように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報は、職員が共有し支援の内容を考え、対応できるように話し合いを行っている。その後サービス内容の変更が必要と思われる時にはその都度ご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告を行い、ご理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの共同生活の中で、ご本人の出来る力を把握し、様々な役割を持っていただけるように支援している。1日の全般をホームの共有スペースで過ごされる方が多く、毎日午前レク、午後レクを行い、利用者様と職員と一緒に楽しみ会話する時間が持てるように支援をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、また何か問題が起きた時にも、その都度ご家族にお伝えし、まずはご本人の気持ちを考え、対応の変更も報告している。利用者様を支えていくために、現状を把握していただき、共に支えていく関係作りを構築していくように取り組みを行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に年賀状は、利用者様おひとりおひとりが、自筆で書いたり、印判やシールなどを貼り、個性あふれたお手紙を作成し出していただくようにしている。、面会者にはゆっくりと、ご本人とくつろいでいただき、以前の思い出話ができるように配慮している。また会話が弾まれるように、ホームでのご様子など、生活風景の写真を一緒に見られながら、職員も席を共にでき、お伝えできる時間を作るように取り組みを行っている。外出行事の場所を選定する際には、利用者様のご希望も取り入れながら、楽しんでいただけるように企画を立案している。	家族の面会や親戚の人、知人、昔住んでいた近所の人などの来訪がある他、年賀状のやりとりや電話の取りつきなどの支援をしている。家族の協力を得て、外出や帰宅、旅行、自分の田んぼを見に行く(田植え、稲刈り)、法事への出席など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにはそれぞれの方がくつろげる居場所があり、一緒に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、野菜の皮をむいたり、貼り絵をしたり、ときと場面によって、色々な方と席を共にされ、関係を築かれるように気を配りながら、支援を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、アンケートをお渡しし、ホームに対しての意見をいただき、見直しを行う様に努めている。またご家族の方より、お便りをいただいたり、訪問された場合は、相談等以前と変わらない関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務優先と考えず、日頃から利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。また言葉で表す事が困難な利用者様に対しては、些細な行動や仕草などに気を配り、職員間で意見を交換しながら気持ちを把握し、支援できるように努めている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごされ方のリズム表の作成及び見直しも随時行っている。	入居時の基本情報シートやアセスメントシート(私の暮らし方シートなど)を活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子を経過記録に記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。利用者の思いや状態に変化がある場合は、本人の願いなどをアセスメントシートに赤字で追加記録して共有している。把握が困難な場合は、利用者の思いを汲み取って、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集は行ってはいるが、日々の会話で、収集した内容などに関してなど、面会時にご家族、知人の方と会話に交じらせていただき、話を伺う時間を儲けるようにしている。昔の思い出話などから新たな情報が得られることも多く、しっかり職員間で、情報共有出来るように記録とし残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりに身体記録、経過記録があり、身体記録には食事(水分)摂取量やバイタルなど、身体の状況がわかるようにまとめてあり、ホームでの役割や1日をどのように過ごされたかや、個々のもてる力を記入でき、情報共有を行っている。1日の生活リズム表を基に1日何もされずに過ごされる事がないように日々支援を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよい生活を送っていただけるように、担当者を中心にその都度、問題やケアの方法などを検討している。利用者の状況把握のためのシートなどを活用し、計画作成担当者、管理者と担当者が話し合い、介護計画を作成している。また24時間シートを活用し、月1回のミーティングやカンファレンスなどで、利用者様の現状に合う支援について話し合い、職員全員が理解し、ケアの統一が行えるように取り組んでいる。	利用者の思いや家族の意向、主治医や訪問看護師の意見、アセスメントシートを参考にし、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。月1回のミーティングやカンファレンスで、24時間シートを活用して、サービス内容について検討し、3ヶ月毎にモニタリングを実施して、期間に応じての計画の見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表など利用者様の日々の状況を詳しく記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、利用者様の日々の様子や変化を見ながら、既存のケアにとらわれず新しい取り組みを行えるように努めている。、ケアの方法の変更時などは、温故知新の書という書類を活用し、リアルタイムに実践をして経過を見るようにしている。書類は職員全員が回覧をし意思疎通が出来るように努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員同士の連携で優先順位を考えながら、支援を行っている。業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更していけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にも自治会長や民生委員の方が来られ、地域の状況も踏まえた意見交換を行えている。開所より毎月手芸ボランティアの方も継続していただき、利用者の方の楽しみの一つにもなっている。また、歌や三味線など定期的に来ていただけるようになり、そのほかお祭りの時など様々なボランティアの来訪もある。併設の特養の入居者の方々と一緒に参加し、地域の中で楽しみが増えるように支援をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のかかりつけ医が2週間に1度、訪問診療で直接利用者お一人おひとりを診察され、職員が立会い日々の状況を報告、相談を行い、指示または服薬の調整を行っている。必要時には紹介状で専門医の受診を行っている。訪問看護師の定期訪問も週1回あり、職員からの相談に対し、状況に応じた注意点や介助法などアドバイスをしてもらっている。必要な時にはかかりつけ医に報告を行っている。訪問看護記録に残し、職員全員で回覧をしている。夜間緊急時にはかかりつけ医また訪問看護へ連絡を行い、利用者様が適切な医療を受けられるような体制になっている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療を受診している。必要時には、訪問歯科の受診の支援をしている他、他科受診も事業所が支援して、医師への情報提供や、受診前と受診後に家族に伝えるなどの支援をしている。訪問看護師が週に1回来訪し、利用者の健康管理や職員の相談を受け助言をして支援している。夜間や緊急時には、かかりつけ医への連絡やオンコールで、訪問看護師と連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回訪れ、職員からの報告、相談を受けている。記録物に目を通し、意見やアドバイスを職員に直接話したり、また記録に記入し残し、職員全員が共有出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	また入院された際にはホームでの生活の状況や身体状況など情報提供を行っている。入院中も何度かご本人の面会を行い状況を把握できるように努めている。退院前には入院中の状況や、今後の注意点を担当医または看護師に情報提供をしてもらえるようお願いをし、ご本人が退院後に、以前のように安心でき、安定したホームでの生活に活かしていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合についてホームの指針をもとに説明を行っている。また状況にあわせ、その都度新たにご家族とは、今の状況で医療との連携を行いながら、どのような方針で進めていくのかなど話し合いを行っている。毎月状況は詳細にご報告をしていきながら、ご家族の方にもご協力頂けるように取り組んでいる。	「重度化した場合における指針」があり、事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度、医師の意見を聞いて家族と話し合い、医療機関や特別養護老人ホームなどの移設を含めて方針を決め、全員で方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、報告書に詳細に記入し、その日のうちに職員で話し合い対策または改善が必要ならすぐに行い、再発防止に努めている。また全員に回覧をし共有を行っている。随時ご家族にも報告を行い、対策についても説明させていただいている。ヒヤリハット報告書も事故を未然に防ぐために活用しなければいけないことなど定期的にミーティングで説明また話し合いを行っている。日中、夜間緊急時の対応についても定期的に見直しました再確認をし、対応法を話し合っている。訪問看護師の訪問の際にも手当、また対応法などその都度指導を受けるように努めている。	事故が発生した場合は、その場にいた職員が、状況や対応策を事故、ヒヤリハット報告書に記録して回覧し、全職員で共有している。月1回、拠点施設のリスクマネジメント委員会で話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。法人研修の救急救命講習に、職員3名が参加している他、緊急時の対応について訪問看護師の指導を受けているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同で年3回利用者様、職員参加で避難訓練を行っている。昼夜の火災想定や風水害の場合の避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を行い、毎回見直し反省を行い次回の訓練に活かせるように取り組んでいる。地元消防団の協力を得ての火災想定避難訓練を1度行った。	併設施設と合同で年3回、防災訓練を実施している。1回は、地域の消防団員の協力や地域住民の参加を得て、日中、火災を想定した消火や避難誘導訓練を実施している。年1回は夜間の火災を想定した通報、消火、避難訓練を実施している。年1回、風水害を想定した訓練を実施している。運営推進会議で防災や地域との協力体制について話し合っている。災害時の緊急連絡網に自治会長や地域住民が加入し、訓練への参加協力もあるなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団の中で、ご本人が恥ずかしいと思われな いように言葉には十分に気を付け、傍に寄 り、話を行いお一人おひとりの人格を尊重で きるように努めている。また、認知症の症状に あわせ、その方の状況にあった呼び名をご家 族にもお話しし、ご本人が笑顔で安心して生 活していただけるように心掛けている。	職員は法人研修で学び、利用者を好きにな る気持ちを持って、人生の先輩として敬意を 払って利用者に接し、人格を尊重して、誇り やプライバシーを損ねないよう対応をしてい る。個人記録は保管し取扱いに注意してい る。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	毎日10時の飲み物はお好きなものを選んで いただいたり、入浴も声かけをし、今日はどう されるのかはお伺いをしている。余暇の過ご し方も何をされたいのかお声をかけ、希望に 添えるように支援を行っている。職員は1日 の中で何度か選択される機会をもうけ、お一人 おひとりの思いを汲み取れるように努めてい る。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、今日の予定をボードに記入し、希望があ れば記入している。職員は、その日の状況に 合わせチームで取り組み希望に添えるよう に、支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	外出の際に、必要な生活用品または、衣類 などはご本人の希望も伺い購入を行えるよう にしている。活動着や寝巻きは、御自分で見 て好みものを選んで着ていただくように努 めている。また、月に1回美容院の方に来て いただき、ご本人の希望に添えるようお願い をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々は厨房より食事は提供となっているが、月に1、2回は昼食の日として、ホームで希望も入れながら、献立を立て、食事作りを行っている。野菜の皮むき、卵割りなど役割を持っていただき職員と一緒に昼食をつくり、一緒に食卓を囲み楽しめるように企画を立案している。また昼食の日に限らず、季節のものを美味しく食べるために、畑を作る方、手入れを行う方、収穫される方、など役割を持っていただきながら、畑から採れる野菜を使って、おかずやデザート作りを行ない出来る事は利用者の方も一緒に行えるように支援している。	三食とも拠点施設の厨房からの配食を利用している。ご飯は事業所で炊いている。月に1、2回、昼食の日として事業所で食事づくりをしている。利用者の好みを聞いて職員が献立をつくり、食材を購入したり、畑で採れた野菜や差し入れの野菜、山菜など新鮮で旬なものを使用して調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや味見、盛り付け、テーブル拭き、お茶配り、下膳、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。昼食の日には、手巻き寿司をつくらしたり、季節の行事食(おでん、ソーメン流し、鍋物など)やおやつづくり(ホットケーキ、クッキー、ゼリー、誕生ケーキ)、誕生日には個別に利用者職員で外食をしているなど、利用者の食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体記録には1日の食事摂取量や水分摂取量を記入し把握出来るようにしている。また体調や食事の状況の変化に合わせて、食事の形態や食事量の検討をし変更を行っている。水分量にも常に気を配りながら、随時お勧めをし補えるように努めている。また夜間にも、お聞きし水分をお出しするようにしている。またかかりつけ医の訪問診療の際に報告、相談も行い意見をいただくようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守り、入れ歯の洗浄や消毒等も行い、口腔内の清潔保持に努めている。口腔内の痛みまた入れ歯の不具合等利用者の方より訴えがある場合は、協力医療機関の訪問歯科診療を受けるようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の排泄状況を一目でわかるような記録にし、個々の排泄パターンを踏まえながら、声掛け誘導で汚染を防げるように、支援を行っている。トイレでの排泄が行える事が、不安解消につながる事と考え、スタッフが会話からだけではなく、個々の表情や行動を理解できるように努めている。おむつに関しては自己負担ということ、スタッフ全員が理解しており、適切な使用方法を随時検討し、使用削減の取り組みを行っている。	職員は24時間シートの排泄記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、利用者に応じた言葉かけや誘導でトイレの排泄ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなるおやつや飲み物などを提供している。毎日体操は食前に行い、室内レクなど体を動かすことに参加していただけるよう毎日の日課として、取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後、また時間や順番は特に決めておらず、安全に行えるように考えている。お声をかけ承諾いただき、毎日希望されても入浴していただけるように努めている。月ごとの入浴回数の集計をし、拒否が多い方は、なぜかを考え、次回にはどのようにしたら入っていただけるのかを、スタッフ同士が意見を出し合い検討し、清潔が保て気持ちよく生活が送れるように努めている。	入浴は毎日、10時30分から11時30分までと、13時30分から17時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には、時間をずらしたり、職員が交代したり、言葉かけに工夫して支援している。利用者の状態に応じて、下着の着かえやシャワー浴、足浴などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息は、お一人おひとり自由に好きな場所でくつろいでいただけるように考えている。夜はゆっくり横になっていたようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握に努め、お一人おひとりの生活習慣を崩されないように支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が次の日の薬セットの役割を持っている。薬に関する情報のファイルがあり、薬の目的、用法、容量などを目で見る機会があることで、入居者の方の病状を理解をしながら、その方の変化や状態を確認している。また服薬方法も個々の能力に合わせ、内服が出来るように支援している。飲みにくい散薬等、内服拒否にならないようお一人おひとりの状況に合わせて検討も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず役割が持てるよう支援している。余暇の過ごし方としては、入居前の情報やご家族から聞き取った情報を活かせるように、検討を行っている。また今日の予定などを一緒に考え、楽しみが持てる関わりが出来るように努めている。毎月の行事予定を掲示し、外出や一緒に調理を行う昼食の日など、楽しみが多くなれるよう心掛けている。	ぬり絵、貼り絵、折り紙、習字、季節に合わせた作品づくり、手芸(さげもん、さるの干支、ゆれるサンタクロース)、しめ縄づくり、テレビやDVD視聴、新聞や雑誌を読む、音読、歌を歌う、クリスマスハンドベル、踊り、あやとり、計算ドリル、バランスゲーム、ヨーヨー釣り、えび釣り、風船バレー、雑巾縫い、ゴミ箱づくり、畑仕事、草取り、掃除機をかける、はたきをかける、ホーキで掃く、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼり干し、おしぼりたたみ、食事の準備、後片づけなど、利用者のしたいことやできることを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて、施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生日にはスタッフと事前に話し合い、希望に添える個別外出をしていただいている。外出行事は、見慣れた懐かしい場所、また今しか行けないところなどを企画し、事前に問い合わせご協力いただけるようお願いをし、利用者の方々に負担なく楽しんでいただけるように努めている。	散歩や買い物、神社の祭り、梅や桜の花見、イチゴ狩り、フラワーランド、常盤公園、徳山動物園、サファリランド、写真展などに出かけている。職員と個別に誕生日の食事をしたり、家族の協力を得て旅行に出かけているなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事では、昼食に御自分で好きなメニューを見られ、選んで食べていただいたり、生活に必要なものや新しく購入が必要なものなどは、誕生日個別外出の時に、御自分で好みにあった品物を選ばれ、購入していただけるように支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご理解をいただき、利用者様が不安にならず安心して生活が送れるために、ご希望があれば、電話はかけさせていただけるようにご協力していただいている。また年末にはご家族に自筆で、また難しい方は印判やシールなどを利用し年賀状を作成していただき、返事を楽しみにされるように取り組んでいる。お手紙や絵葉書などは、居室に飾り、目に入るように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節を感じていただけるように、飾り作りや壁画を利用者同士共同制作を行い、1ヶ月ごとに室内の装いに変化を持たしている。ここが我が家のように居心地よくつろげるために、家具の配置やソファの位置等、安心出来る雰囲気作りを工夫している。	玄関には、さげもんや手づくり人形など飾ってある。共有のホールには、テーブルや椅子、テレビ、ソファを配置し、季節の花が生けてある他、壁面には利用者の笑顔の写真や、利用者と職員が一緒につくった季節に合わせた作品を飾って季節感を採り入れている。テーブルや椅子は、利用者の状況を見て、ベストな状態になれるように配置を工夫している。温度や湿度、換気、明るさなどに配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は特に決めておらず、気の合う方とお好きな場所で過ごされることができ、気分転換にソファや椅子も多く設置している。また集団レクや創作活動等ではテーブルの配置を変え、1つのテーブルに集まれるようにし、交流が持てる工夫を行っている。一人になりたい時にも、ご自分で移動されるように手すりの位置などを考えながら居心地のよい空間づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、ご自宅より持参された馴染みのものを配置して、お一人おひとりの生活のしやすい環境を個別で検討している。またお好きなものや作品などを目に付く場所におけるようにしている。居室入口には表札があり、居室にも写真やカレンダーを飾り、ご自分のお部屋に愛着が持てるように工夫している。鏡台や化粧品もあり、身だしなみを整えられる方もおられ、個性を活かせる居室作りを心掛けている。	居室は広く、自然の光が差し込んで明るい。テラスがあり、外の景色を眺めることができる。ダンスや椅子、衣装かけ、布団や生活用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、自分の作品や家族の写真や、人形、カレンダーなどを飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様各々の、できる力を発揮していただけるように、身体状況に合わせたテーブルや椅子の配置を工夫している。また、必要な福祉用具等の検討もしながら、安全に生活を送られるように支援を行っている。出来る事、出来ない事は職員一人ひとりが把握し、出来る事は見守り、できないことは声かけをしながら、見守り、必要な支援を行う様に努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム自由の杜

作成日: 平成 28 年 8 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	常日頃から事故対策及び防止に対して取り組みを行っているが、毎月事故報告書よりも、ヒヤリハット報告書の枚数が下回っている。事故に対する予測ができず、対策するためのヒヤリハット報告書が上手く活かされていない。	事故が起こらないためのヒヤリハット報告書を活用し、事故を未然に防ぐ事が出来る。	リスク委員を中心に事故に対する危機感をもてるように定期的な研修を計画し、職員一人ひとりが、事故を予測でき対策が出来るように取り組みを行う。	1年間
2	35	急変や緊急時の対応をその時や場面で違うため全職員が実践できるとは限らない。特に夜間帯には的確な判断が必要となる。	急変時、緊急時に直面した時に慌てず適切な手当や対応を全職員が出来るようになる。	リスク委員、感染対策委員が月ごとのテーマを決め、全職員が学習出来るような内容を計画し、実践に繋げていく。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。